

筆の里工房周辺整備に関する事業概要書

1 筆の里工房周辺整備コンセプト

熊野町の持続的なまちづくりの推進に向け、本町が世界に誇る伝統的工芸品である『熊野筆』の芸術・文化を国内外に発信するとともに、本町の「食」、「自然」、「人」などの魅力を体感できる場として、また、筆の歴史等を知ることができる文化施設「筆の里工房」に隣接している強みを活かし、『筆』の体験交流施設を核とした公園空間、地域活力を創造する施設を備えた観光交流拠点公園を整備することで、交流人口の拡大、地域活力の向上を図るため、以下のコンセプトを基に事業を推進しています。

1. 『町民と共に、持続的に』創る

第6次熊野町総合計画において、目指すまちの姿として『ひと まち 育む 筆の都 熊野』を掲げ、町民との共生による信頼と連携を基本に持続的なまちづくりを進め『なんかいい』『ちょうどいい』と想える「熊野」を目指しており、『町民と共に、持続的に』創っていくエリア（＝『自分たちが関わっている』という実感を『地域貢献＋楽しみ』の形で実現していくこと）を目指す。

2. 町民が利用し、くらしを豊かにする

『集客・観光』の視点に留まらず、町民が利用し、非日常的な体験により、町民自身が新しい自分を再発見する一助となるエリアを目指す。

3. 創作活動を通じた持続的なまちづくり

熊野で創られ、熊野を代表する「熊野筆」は、筆の里工房と隣接しているという立地関係も含め、『熊野町らしさ』を表現し、オリジナリティ（差別化）、ここにある必然性／関係性を形成する重要な要素である。また、「熊野筆」による『熊野らしさ』には、筆による創作物である『書』や『絵』や『化粧』、これらが紡ぐ【文化】【アート】という要素が重要な役割を果たしている。産業として、またこれら【文化】【アート】という要素も含め、持続的に発展させるためには、熊野発で筆の新たな可能性を発信していくことも重要である。

その一方で、町民の利用シーンを増やし、活用・参加し易い場とするためには、筆に限定せず食や身近なモノも含める必要がある。広く『表現の場、体験の場』を『創作活動』と捉え、『創作活動』による持続的なまちづくりをキーコンセプトの1つとする。

4. 自然・くらし・文化（周辺環境）との調和

熊野町の『なんかいい』『ちょうどいい』、熊野町らしさの重要な要素となる自然環境について、整備エリア周辺の自然環境との調和、利活用をもう1つのキーコンセプトとする。

※上記3と合わせ、インドアとアウトドアの融合を図る。

5. 自由度のある施設

変化が激しい時流を考慮し、熊野の魅力を引き出しながら、時代に合わせて変わっていきける自由度のあるエリアデザインを目指す。

6. いつまでも留まりたくなるような空間

全国的に言われているニーズの多様化だけでなく、長年、近隣都市を中心に移住者を受け入れ続けたこともあり、町民ニーズも多様化しており、イベントや物販などに頼ることなく、どんな人でもそれぞれにとって心安らぐ空間づくりを目指す。

2 整備スケジュール

実施要領の「8. お問い合わせ先」にお問い合わせください。

3 目標利用人数

実施要領の「8. お問い合わせ先」にお問い合わせください。

4 体験交流施設概要

体験交流施設の設計方針は、資料2のとおりです。